

## WG 活動報告

### 4. 急性リンパ性白血病(ALL)【成人】

#### ① WG メンバーリスト

氏名	所属	診療科
責任者: 田中 淳司	北海道大学病院	血液内科
賀古 真一	自治医科大学附属さいたま医療センター	血液科
水田 秀一	藤田保健衛生大学病院	血液内科・化学療法科
西脇 聡史	名古屋大学医学部附属病院	血液内科
今井 陽俊	札幌北榆病院	内科
藤澤 信	横浜市立大学附属市民総合医療センター	血液内科
垣花 和彦	がん・感染症センター 都立駒込病院	血液内科
加藤 春美	愛知県がんセンター中央病院	血液・細胞療法部
小澤 幸泰	名古屋第一赤十字病院	血液内科
吉原 哲	兵庫医科大学病院	血液内科
山本 久史	国家公務員共済組合連合会 虎の門病院	血液内科
金森 平和	神奈川県立がんセンター	血液内科
川瀬 孝和	Fred Hutchinson CRC	
古川 達雄	新潟大学医歯学総合病院	高密度無菌治療部・第一内科
政氏 伸夫	北海道大学大学院 保健科学研究所	病態解析学分野
長藤 宏司	久留米大学病院	血液・腫瘍内科

#### ② 2011 年末時点で承認された研究、及び業績一覧

「高齢者 ALL 患者に対する RIST の有用性と予後因子に関する研究」 PI: 金森 平和
<b>学会発表・論文業績:</b>
Kanamori H, Kako S, Kato H, Nishiwaki S, Furukawa T, Saito M, Taniguchi S, Nakamae H, Yujiri T, Naganuma-Inoue T, Morishima Y, Suzuki R, Sakamaki H, Tanaka J. Fludarabine-Based Reduced Intensity Hematopoietic Stem Cell Transplantation (RIST) for Patients Aged 50-70 Years with Acute Lymphoblastic Leukemia (ALL) in Remission: A Study From the ALL Working Group of the Japan Society for Hematopoietic Cell Transplantation (JSHCT). 53 <sup>rd</sup> Annual Meeting of American Society of Hematology (ASH), 2011. 12. 10-13. San Diego, USA.
「Impact of donor sources on allogeneic stem cell transplantation for Philadelphia chromosome-negative acute lymphoblastic leukemia in first complete-remission.」 PI: 西脇 聡史
<b>学会発表・論文業績:</b>
「急性リンパ球性白血病に対する軽減前処置造血細胞移植に関する後方視的解析および骨髄破壊的前処置移植との比較」 PI: 田中 淳司
<b>学会発表・論文業績:</b>
「成人フィラデルフィア染色体陰性急性リンパ性白血病における第一寛解期自家移植と同種移植の治療成績の比較」 PI: 加藤 春美
<b>学会発表・論文業績:</b>

### ③ 会議開催記録(2011年1月-12月)

日時	場所	会議内容
2011/1/15	東京	研究計画についての討議
2011/7/2	名古屋	WG 活動方針及び TRUMP 追加項目について

### ④ WG の今後の活動方針・抱負など

高齢者 ALL 患者に対する RIST の有用性と予後因子に関する研究(PI: 金森 平和)については解析結果が 2011. ASH に採択され、論文執筆中であります。また急性リンパ球性白血病に対する軽減前処置造血細胞移植に関する後方視的解析および骨髄破壊的前処置移植との比較(PI: 田中 淳司)も解析が進んできており、発表準備中です。「Impact of donor sources on allogeneic stem cell transplantation for Philadelphia chromosome-negative acute lymphoblastic leukemia in first complete-remission.」(PI: 西脇 聡史)、「成人フィラデルフィア染色体陰性急性リンパ性白血病における第一寛解期自家移植と同種移植の治療成績の比較」(PI: 加藤 春美)についても解析中であり今後の結果が待たれるところです。Ph ALL に関しては TRUMP 追加項目や二次調査の関係があり解析が進んでいませんが、今後の発展を期待したいと思います。